

離島留学生および保護者等の皆様へ

長崎県立壱岐高等学校
校長 重村 恭彦

「精神不調アセスメント(RAMPS)」事業の導入について

本校では、教育相談体制の充実に取り組んでおりますが、このたび、標記の件につきまして、下記のとおり実施することとしました。何卒ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。なおご不明な点がございましたら、担当までお問い合わせください。

1. 事業名 「精神不調アセスメント(RAMPS)」

2. 目的および内容

生徒の精神不調などを早期に発見し適切な支援に繋ぎ、生徒の心身の健康や命を守ることを目的に実施する。

「精神不調アセスメント(RAMPS)」事業は、長崎県教育委員会が東京大学の研究成果をもとに開発された心身の状態をチェックするためのツール(RAMPS)を活用し、自身の精神不調を言葉に出して表現することが難しい生徒の助けとなり、さらに養護教諭等が生徒の精神不調を適切に受け止める一助となる評価システムです。このシステムを利用し、生徒の悩みなどを早期に発見し、重大事案の未然防止に努めます。

タブレット端末の質問に答えることで、生徒の心の不調やリスクを見つけやすくします。生徒は心のつらさを、タブレットを通してそっと大人に伝えることができます。教員は生徒の回答を確認し、心配な項目を中心に話をききます。令和5年度は全国でおおよそ100校の中学校・高等学校等での導入実績があり、メンタル面での課題や不調などの早期支援に寄与した例が複数報告されています。

3. 実施期間 令和7年4月1日(火)から令和8年3月31日(火)まで ※準備期間を含む。

4. 実施方法 ※裏面の実施イメージを参照してください。

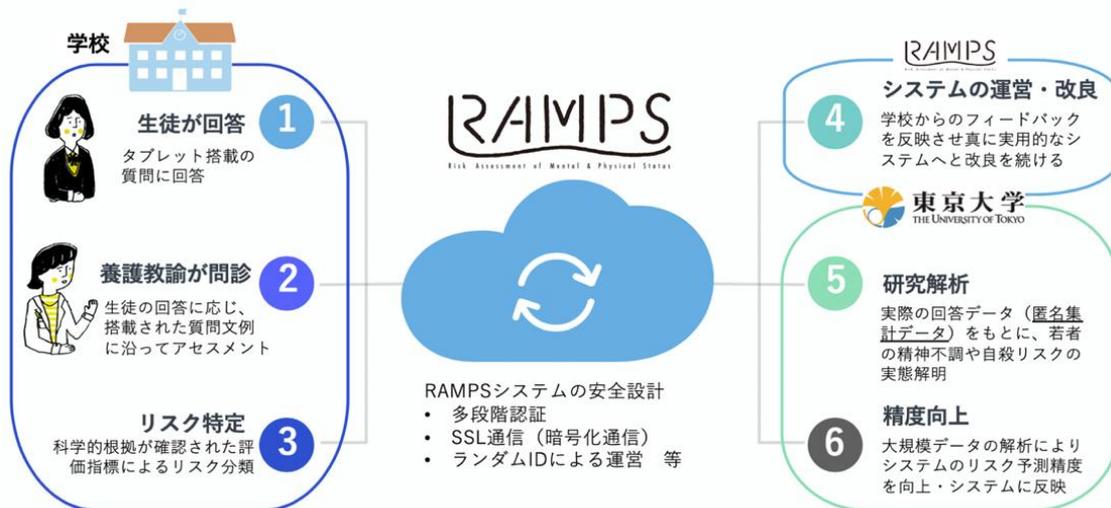
- (1) 生徒が各自の端末でアンケートに答え、その後、東アジアコース主任等が問診を行う。
- (2) 生徒の回答および問診によって得られた回答は、東京大学の監修する国際的な尺度に基づきRAMPSシステムにより評価され、速やかに学校に提供される。
- (3) (1)(2)のデータをもとに、学校は保護者や関係機関等と連携し、適切かつ迅速な対応を実施する。

※なお、アンケートへの回答は強制されるものではありません。また、暗号化通信によりデータの機密性は守られます。

担当 下川 拓朗(教頭)
TEL 0920-47-0081
Mail shimokawa0863@news.ed.jp

【実施イメージ】

クラウドシステムを介して回答データの収集、リスク同定、システムの運用・改良がなされます。また精神不調などを早期に発見する精度向上のために東京大学では匿名集計データを研究利用します。



RAMPS システムは、様々な第三者認証を受けたクラウドシステムを採用し、クライアントとサーバー間のデータ送受信は全て暗号化通信されます。またランダムに発行された ID (RAMPS ID) により、運営がなされます。なお円滑に RAMPS システムをご利用いただくために、学校が利用するシステム上では生徒氏名を使用します (例: 養護教諭は回答データの閲覧・検索を生徒氏名で行うことができます)。氏名を使用するのは学校内のみで、東京大学での研究解析等では RAMPS ID を活用し、氏名は一切使用しません。ただし、学校内でのシステムに RAMPS ID と氏名を登録するために、導入にあたって RAMPS のデータベースに氏名を登録する必要がありますので、ご理解いただけますと幸いです。氏名等のデータはシステム運営法人一般社団法人 RAMPS (RAMPS のシステムを管理維持する目的で立ち上げられた東京大学発の非営利法人) により取得・管理され、本校との間でのみ共同利用されます。データベースに氏名を登録することに同意いただけない場合は担当までご連絡ください。

生徒・保護者のみなさまへ

以下に実施にあたり特に生徒のみなさんに知っておいていただきたい事をお伝えいたします。

・「RAMPS」で質問すること

気分が落ち込んだり、何をしてもやる気が起きなかったり等のうつ傾向や、自分で自分の身体を傷つける行為や生きていても仕方がないといった気持ちについて、またいじめ等の問題についてお聞きします。睡眠、食事といった生活習慣についてもお聞きします。どのような回答をしても、生徒のみなさんに不利益が生じることは一切ありません。どうか安心して、現在のありのままの気持ちや行動について教えてください。

・RAMPS で「要注意」の結果が見られた場合および事後対応等について

RAMPS の結果は医学的「診断」ではなく学校での支援の必要性を知るための、心身の状態を知る手がかりを得るために行うものです。必要な生徒には学校内での相談等を実施していきます。また医療機関等の受診等、学校での支援を超えたサポートが必要かどうかを、養護教諭やスクールカウンセラー等と相談して決めて行くこともあります。

RAMPS 研究開発者 北川裕子 (東京大学特任助教)、佐々木司 (東京大学教授/精神科医)